



## 海賊をしたいわけではない 海賊から漁師へ

心  
あ  
っ  
た  
か  
ニ  
ュ  
ー  
ス

NMCAA  
NO3

北海道から九州まで、51店舗を展開している「すしざんまい」の木村清社長のあつぱれニュースです。(ハーバービジネスオンライン参照)

キハダマグロの漁場であるソマリアの沖は海賊がでるために漁に行けない状態でしたが、木村社長はその海賊達にマグロ漁として仕事を与えて、海賊被害を300件から0件にして政府から勲章をもらったそうです。

海賊といっても相手は人間と思っていた社長は、ソマリアの海賊たちに会いに行きます。そこでわかったことは、彼らだっただけ好きで海賊をやっているわけじゃないということです。社長は海賊達に、この海で働いて、自分で稼いだお金で家族を養う、誇りを持った人生にするよう話をします。

問題は彼らが、マグロ漁の船と技術、もなく、捕ったマグロを入れておく冷凍倉庫が使えなくなっていること。そして獲った

マグロを売るルートがなかったこと。そこで木村社長の船を4隻もつていき漁の技術を教え、冷凍倉庫も使えるようにしました。ソマリア政府にはたらきかけてIOTC(インド洋まぐろ類委員会)にも加盟し輸出ができるよう手配し獲ったマグロは買い、販売ルートも確保して、海賊がマグロ漁で生活ができるようにしていきました。

木村社長は言っています。いろいろな国や国際機関も援助をやっていますが、どれも上滑りのことばかりであまり役に立っていないことも少なくありません。相手の視線に立って、相手の悩みに気がついてあげることが必要なんです。それに商売というのは、目の前の利益、儲けのことを第一に考えていたんではうまくいかないものなんです。まず考えなくてはならないのは、どうやって喜んでもらえるか、何を求められているかということ。それに応える算段をするのが「商売」なのではないですか。

### 笑顔のお返し

カナダ、オンタリオ州のマックマスタ大学の中にある、「コーヒーチェーンタイム・ホートン」のレジ係りとして働いて

いるテリーおばさんは、とても陽気で温かく分け隔てなく誰にでも笑顔を振りまいていた。

コーヒーを買うと、テリーおばさんの無償の愛がついてくる。その愛嬌のある笑顔に多くの学生が救われていた。いつか恩返しをしたい、と思っていた生徒が行動をおこした。秘密裏に募金活動を行い、彼女のために旅行用の資金を集めた。生徒達はフラッシュモブを行い彼女をビックリさせた後、集めたお金をプレゼントした。

#### 編集後記

相手を思う気持ち、相手の立場にたった気持ちが大きな変化を作っていくのですね。話すこと、笑いあうことはとても大切だと痛感しました。